

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	じゃんぐる学院		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 6日		2026年 2月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	2026年 1月 6日		2026年 2月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 13
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 9日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	就学後の児童が主なため、困り感の中に学習面に対するものが多く、アカデミックスキルの向上に向けて教員経験が豊富なスタッフが多く在籍している。	アカデミックスキルに対する課題の分析とストレングスに対する強化を行い、学習をすることの楽しさを様々な観点から活動を組み立てて行っている。	ほとんどの保護者が仕事をしているため、送迎にて療育を行うことになり、保護者との共通理解をする時間が物理的にないため、定期的な面談やノート及びSNS等でより相互の理解を深めて児童の困り感に敏速に対応できるようにしていきたい。
2	どこの部分で困り感が出ているかについて課題を整理し、学習することの喜びを得られるように取り組むように努めているため、学校での成績が上がり、自信につながり、学校に行くことの楽しさにつながっていている。	実験や得意なことをやりながら苦手なところを少しずつ取り入れてできるようになることによって、自信ができて学校での困り感が減少することで家庭での生活においても充実した生活が送れるようにしていく。	専門的な知識と経験に基づき、課題をしっかりと整理することによって、療育の方向性を定めていくが、学校との連携や家庭との連携をさらに促進し、相互が対象児童に対して適切な対応ができるようにしていきたい。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	様々な職種や経験があるスタッフがいるにもかかわらず、コミュニケーションを相互に図る時間がケース会議やカルテ記入の時に限られ、家庭や学校での姿が把握できにくい部分がある。	保護者が就労しているため、ほとんどが送迎になり相互でコミュニケーションをとる時間が年々減少している。	経済的な質や生活の質の中を優先しないといけない現実があるため、負担にならないような連携の媒体や方法について工夫が必要になってきている。
2			
3			